

ふるさと検定 八幡壺<探訪考証編>

郷土の伝統・文化を学ぶ 法海寺大百科(第5回)

法海寺は八幡の全住民によって
お守りしています



仁王門(知多市文化財)

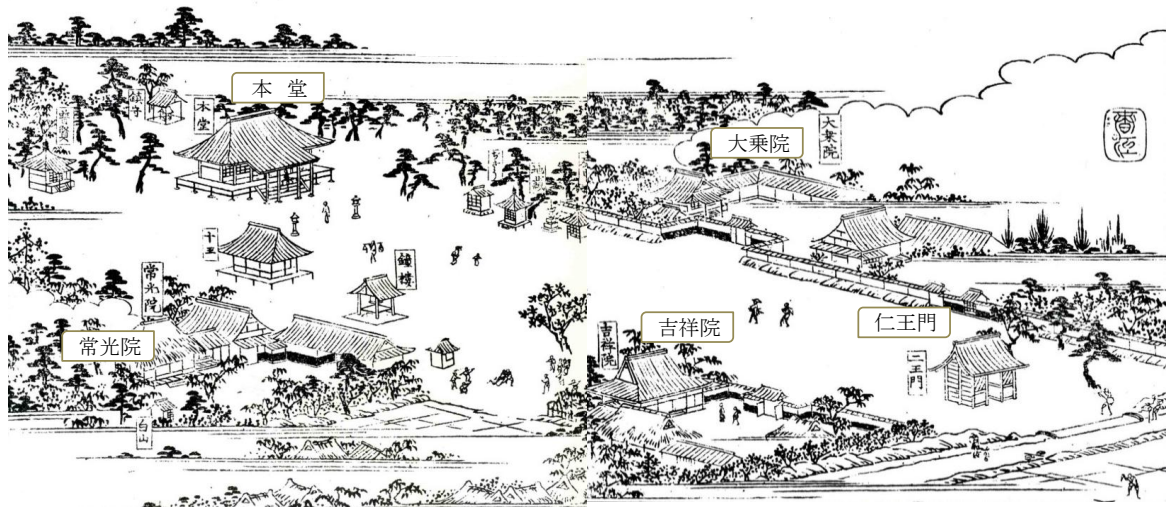
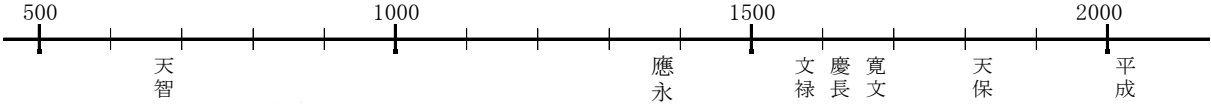
法海寺の創建は天智天皇の御世七(六六八)年と伝えられているが、もとより、創建時の建物が残っているわけではない。当時は堂宇壯観、内外十二坊あつたとされる塔頭も今は常光院、大乘院、吉祥院を残すのみである。佐布里の雨宝山如意寺が所蔵する大般若経第六〇巻の奥書(應永三年)に十二坊のうちの一つである理性坊の名が見られる(既刊第一〇三号の大

百科第三回参照)。少なくとも、中世の前半までは十二坊が整っていたようである。古代から中世までの歴史は明らかではないが、天保年間(一八三〇)一八四三)に発行された「尾張名所圖會」には下図の俯瞰図が掲載されており、法海寺の景観を喧伝した歴史上唯一無二の文献と言える。これによれば、現存の三院は文禄二(一五九三)年から

三月に新築の護摩堂が山塔頭に加えられた。慶長元(一五九六)年にかけて中興されたとあり、近世初頭にはすでに三院のみであったと考えられる。まもなく、慶長五(一六〇〇)年に九鬼氏によって一山は戦火に遭い焼失している。慶長十六(一六一二)年に平井村衆が鰐口を寄贈、また、本堂に奉納された牛若弁慶の絵馬に慶長十八(一六一三)年の年号があることから、江戸時代に入つて境内の諸堂が再建されたことが推察される。爾来、経年老朽化に抗せず、近代になって常光院、大乘院、吉祥院そして本堂がそれぞれ再建されたので、現在、境内の堂宇のうち江戸時代の建物は仁王門のみである。寛文六(一六六六)年から同九(一六六九)年頃にかけて造営され、平成二二年に全面解体して保存修理を行った。建立当時の技法・材料を損なうことなく最大限踏襲していることから、歴史的価値が認められ知多市の文化財に指定された。

慶長元(一五九六)年にかけて中興されたとあり、近世初頭にはすでに三院のみであったと考えられる。まもなく、慶長五(一六〇〇)年に九鬼氏によって一山は戦火に遭い焼失している。慶長十六(一六一二)年に平井村衆が鰐口を寄贈、また、本堂に奉納された牛若弁慶の絵馬に慶長十八(一六一三)年の年号があることから、江戸時代に入つて境内の諸堂が再建されたことが推察される。爾来、経年老朽化に抗せず、近代になって常光院、大乘院、吉祥院そして本堂がそれぞれ再建されたので、現在、境内の堂宇のうち江戸時代の建物は仁王門のみである。寛文六(一六六六)年から同九(一六六九)年頃にかけて造営され、平成二二年に全面解体して保存修理を行った。建立当時の技法・材料を損なうことなく最大限踏襲していることから、歴史的価値が認められ知多市の文化財に指定された。

古代〔飛鳥(白鳳)・奈良(天平)・平安] 中世〔鎌倉・南北朝・室町] 近世〔江戸] 近代〔明治以降]



尾張名所圖會